

科目名 Subject Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
音楽表現Ⅱ Musical expression II		1年	後期	月曜日・5時限 水曜日・3時限、5時限
単位数	授業の形態		授業の性格	
1単位	演習		選択 (保育士養成課程選択)	
当該科目の理解を促すために受講することが望まれる科目				
音楽表現Ⅰ、ピアノ演奏法Ⅰ				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
ピアノ演奏法Ⅱ				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー	電話番号・メールアドレス	
石塚 将之	本館3階	水曜日、金曜日の9時から17時(授業時間を除く)	授業中に指示します	
授業の概要				
春期開講科目である音楽表現Ⅰで学んだ基礎的な音楽知識を基に、更なる音楽知識の習得と音楽技術の向上をはかる。歌唱法については幼児曲を中心に多くの曲に触れ歌うことができることを目指し、リズム運動では身体をつかってリズム感を養い、鍵盤ハーモニカの演奏を通して合奏やその指導法・指導上の注意点について学ぶ。また弾き歌いのためのコード演奏法について実践していく。				
授業の到達目標				
①リズム打ちを実践することにより、簡単なリズムやテンポを把握できるようにする。 ②個人個人の適切な音域を知ることにより聴きやすい歌唱法を身に付けるようにする。 ③簡単な重唱を行うことにより、ハーモニーの美しさを理解できるようにする。 ④鍵盤ハーモニカの重奏により、器楽合奏の楽しさを理解し、指導上の注意点について指導できるようにする。 ⑤コードの理解を深め、メロディに対して伴奏付けができるようにする。				
授業の方法				
演習形式にて授業を進める。保育ルームと音楽室(MR1)を併用して、歌唱・楽器演奏・リズムの実践を行う。全体指導・グループ学習及び発表・個人発表の3つの授業形態をとる。				
学習の成果				
授業の概要に記した通り、この授業を履修し上記5つの到達目標に向かって授業に取り組むことにより、将来の保育士または幼稚園教諭としての自身の音楽的能力を自覚しその力を高め児童への指導に対して経験を積み自信を持って音楽指導または保育を展開することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス シラバスを参考に授業の進め方や成績評価、履修上の留意点について説明を行う			
第2回目	リズム表現①(ダルクローズメソッドに基づいて) 音符と休符そして空間について			
第3回目	リズム表現②(ダルクローズメソッドに基づいて) リズム打ち 単純リズムと複リズムそして付点とスキップについて			
第4回目	リズム表現③(ダルクローズメソッドに基づいて) リズム打ち 2対3のリズムの実践			
第5回目	リズム表現小試験とまとめ 身体全体を使つての2対3のリズム打ち、そしてまとめ			
第6回目	歌唱及び重唱① 発声と身体の使い方について(重唱曲課題、幼児曲課題)			

第7回目	歌唱及び重唱② 子どもの音域と大人の音域について(重唱曲課題、幼児曲課題)		
第8回目	コード演奏法について① コードのしくみと音色(幼児曲課題)		
第9回目	コード演奏法について② 幼児曲の簡易演奏化について(幼児曲課題 弾き歌い)		
第10回目	鍵盤ハーモニカ奏法(ピアノ演奏との違いについて)及び指導法の留意点について		
第11回目	鍵盤ハーモニカ演奏 重奏課題①(4重奏) ラバーズコンチェルト ②(4重奏) 荒野のはてに		
第12回目	器楽合奏法① リズム楽器を含めた合奏 歌唱課題曲(個人)選定		
第13回目	器楽合奏法② メロディ楽器・リズム楽器を含めた簡易合奏		
第14回目	歌唱課題曲 練習 試験にあたっての留意点について		
第15回目	歌唱課題曲試験及び全体のまとめ		
成績評価の方法と基準			
評価の領域		割合	評価の基準
授業参加態度		30%	学習意欲を持って授業に参加し、全体発表やグループ発表に対して与えられた責任を果たす事
レポート			
調査報告書			
小テスト		10%	スキップ及びリズム打ちの小テストについては正確にリズムを刻めることが評価対象となる
中間・学期末試験		30%	歌唱試験に関しては選曲理由から音域・表情づけまでを総合的に判断する
発表内容(態度含む)		20%	全体発表及びグループ発表に対して与えられた責任を果たしているか教わったり教えたりする関係が構築されているかを音楽的完成度に加味して評価する
その他		10%	コード演奏法では授業内にて個人に課題を与える。決められた時間内で課題を提出できるかが基準となる。
教科書と参考図書			
幼児のための音楽教育(教育芸術社) もしくは音楽表現Ⅰにて使用した教材			
履修上の心得・ルール			
動きやすい服装で授業に臨むこと。 鍵盤ハーモニカ演奏では自前の楽器を持っている学生はその楽器を持ち込んでよい。また短大備品の楽器を使用する場合には購買にて鍵盤ハーモニカ用マウスピース(ヤマハ用)を購入してもらいます。			